

3-3-3 器官病態系内科部

3-3-3-1 消化器・肝臓科

1. 概要・特色

小児の消化器疾患、肝疾患、栄養管理のスペシャリストとして、関係各科との連携をスムーズにする中で、質の高い医療の提供に尽力している。

医長は、日本で唯一の米国小児消化器病学会専門医で、医員は日本肝臓学会専門医である。

炎症性腸疾患の診断治療には特に力を入れており、乳幼児を含むクローン病、潰瘍性大腸炎の患者数は国内屈指で、全国から紹介患者を受け入れている。

ウイルス性肝炎の診断と治療、また、乳幼児を含む肝障害の診断と治療にも力を入れており、適応があれば、移植外科とも相談し、適切な時期での適切な治療を心がけている。

また、院内の栄養サポートチームの中心として、勉強会の開催、コンサルテーションも行っており、総合診療部、外科、リハビリテーション科、栄養管理室と協力して、小児の栄養関連の臨床研究をすすめている。

外来では、炎症成長疾患患者のフォローに加え、重症便秘症、過敏性腸症候群、体重増加不良、肝機能障害などの診療を中心に紹介患者も多く、患者・家族からも高い評価も受けている。

2. 診療活動

2.1 炎症性腸疾患の診断・治療

近年小児にも増えてきている潰瘍性大腸炎・クローン病といった炎症性腸疾患の診療には特に力を入れており、全国から紹介患者を受けている。2006 年以降、100 人を超える炎症性腸疾患の診断・治療を行ってきたが、この数は国内屈指である。

乳幼児であっても、内視鏡検査と放射線科・病理診断部の協力を得ての適切な診断を行い、適応があれば、副作用や成長障害に十分な配慮しながら、血球除去療法（LCAP/GCAP）、免疫調整剤や抗サイトカイン療法等も積極的に導入して、疾患のコントロールと予後の改善を目指している。

小児の炎症性腸疾患の拠点施設として、小児 IBD 患者のレジストリー研究、QOL 向上、乳幼児発症炎症性腸疾患の病態に関する研究を推進している。

特に小児 IBD 患者の QOL の向上のため、北米で開発され世界 15 か国語に翻訳されて活用されている IBD の小児患者のための QOL 調査アンケート「IMPACT-III」の日本語版をもちいながら、専門の臨床心理士による面談、栄養管理部との連携などを通して、QOL に配慮した診療を心掛けている。

また、全国の小児炎症性腸疾患診療施設との多施設共同研究を多数実施しており、患者・家族へ、質の高い診療を提供すべく、努力を続けている。

2.2 便秘症・過敏性腸症候群

便秘症や過敏性腸症候群といった機能性の腸疾患に関しても、器質的疾患の適切な除外と、積極的な薬剤療法により、患者の QOL を大きく改善している。

学童の消化器症状には心因的要素が強い影響を及ぼしていることも少なくなく、適応があると判断すれば、総合診療部・こころの診療部の協力も得て、患者のニーズに応えている。

2.3 その他の消化管疾患・栄養疾患

消化管の内視鏡検査は年間 200 件以上を行っており、国内の小児施設としては最多件数と思われる。門脈圧亢進症に伴う食道静脈瘤の治療、消化管出血の内視鏡的診断と治療も適宜行っている。

乳幼児期の血便精査のための大腸ファイバーやポリープ切除術、乳児期からの血便をはじめとす

る消化器症状の原因としての好酸球性胃腸炎の診断治療にも積極的に取り組んでいる。

2011 年度にカプセル内視鏡を導入し、これまで、特に小児患者で評価が困難であった小腸での出血性病変や、小腸クローン病などの診断と治療方針の決定に貢献している。

2.4 肝疾患・肝機能障害

肝機能障害の原因検索、評価、治療目的のコンサルトを病院内外から数多く受け入れている。

ウイルス性肝炎やその他の感染性肝炎、胆道閉鎖症、自己免疫性肝炎、原発性硬化性胆肝炎、Wilson 病、肝線維症、Caroli 病、肝硬変、胆石症などの肝胆道系疾患に加え、シトリン欠損症や尿素サイクル異常症、糖原病などの代謝性疾患の診断と治療など、関係各科との協力のもと行っている。また原因不明の肝胆道系疾患の原因検索、治療も積極的に行っている。

肝移植の適応を検討する必要があるケースでは、早期に移植外科と連携し、集学的治療をおこなうことで、患者の予後と病態の改善を目指している。

HBV 母子感染予防処置およびその後の経過観察についても、関係各科と連携しながら行っている。

3. 臨床研究

消化器・肝臓科では、小児の消化器・肝臓・栄養分野の臨床研究を幅広く実施している。

既に倫理委員会で承認されているものは下記のとおりである。

このほかにも、小児の炎症性腸疾患、小児栄養、肝疾患についての臨床研究が複数計画されて、準備が進められており、この分野における医療と、患者の予後/QOL の改善に貢献していきたい。

成育医療研究開発費

- ① 「小児病院における栄養管理の標準化に関する研究」（主任研究者：新井勝大，分担研究者：伊藤玲子）
 - 1) 「小児消化器疾患における病態に則した栄養管理の標準化のための研究」（研究責任者：新井勝大，分担研究者：伊藤玲子）
 - 2) 「日本語版 IMPACT-Ⅲの信頼性及び妥当性の検討」（研究責任者：新井勝大）
 - 3) 「クローン病患者の発症前後の食習慣の変化と食事・栄養療法における心理状態についての研究」（研究責任者：新井勝大，分担研究者：高橋美恵子）
 - 4) 「日本小児炎症性腸疾患レジストリシステムの構築及びそれに基づく実態調査と自然史解明のための研究」（研究責任者：新井勝大，分担研究者：清水泰岳）
- ② 「妊婦における予防接種の有効性と安全性に関する研究」（研究協力者：伊藤玲子）
 - 1) 「B 型肝炎ウイルス持続感染妊婦からの母子感染予防の検討」（研究協力者：伊藤玲子）

厚労労働省科学研究費補助金 難治性疾患克服研究事業

- (ア) 「新生児食物蛋白誘発胃腸炎 (N-FPIES) の疾患概念確立、実態把握、診断治療指針作成に関する研究」（分担研究者：新井勝大）
- (イ) 「小児好酸球性食道炎 (EE) の患者全体像の把握と診断・治療指針の確立に関する研究」（分担研究者：新井勝大）

その他

- ① 「免疫抑制薬内服中の患者への弱毒生ワクチン接種についての前方視的研究」（分担研究者：新井勝大，伊藤玲子）

- ② 「胆道閉鎖症の発症と病態に関わる感染因子に関する研究」(研究責任者：伊藤玲子)
- ③ 「慢性肉芽腫症に合併した難治性非感染性腸炎に対するサリドマイド療法の臨床効果に関する検討」(分担研究者：新井勝大，伊藤玲子)